〝シーオそだて隊〟田植えを行いました

田植え作業

6月5日（日）に田植えを行いました。4月に種まきをし、20㎝ほど成長した苗を、ビオトープ「シーオ」の生きもののために植え付けました。「しるしに合わせて植えよう」「ヤゴがいたよ」と、賑やかに作業は進みました。

この先、8月頃には穂が出る出穂（しゅっすい）を迎えます。イネの成長に伴い、田んぼで出会える生きものも変化していきます。

8月21日（日）9時半～10時半には、「真夏の生きもの調査」を開催（当日先着20名）。今後もシーオのイネの姿や、そこで出会える生きものたちに、ご注目ください。

●持ちもの：虫取り網、虫カゴ、軍手、水筒、スタンプカード（2回目以降の方）

●服装：動きやすい長袖、長ズボン、帽子

エコクイズの答え

Q1② 区役所、公民館、図書館などに設置されている黄色の小型家電回収ボックスに入れましょう。個人情報の削除を忘れずに。販売店などでも回収しています。

Q2② 使い切ったら透明な袋に入れて、有害危険ごみへ。もし、中身が残っている場合は、袋に「中身あり」と貼り紙を付けて、空のものと分けて出してください。

桜環境センターの利用団体紹介

さくら布ぞうりの会

古布から生まれる心地よさ

「さくら布ぞうりの会」は、毎月1回、桜環境センターに集まって作品を作っています。2018年に桜環境センターで開催された布ぞうりの講座がきっかけで、会が生まれました。

思い出の古布をかたちに

布ぞうりは、ゆかたやTシャツなど衣服の生地を活かすことで、その服に残る思い出も一緒に編み込めるそうです。古いものを活用できて、思い出も残って、ごみも減らせると注目されています。

代表の岩田明子さんは、作ったものを寄付するだけでなく、障がいのある人の作業施設などに作り方を教えたいと考えています。作ったものをもらうよりも、自分で作る楽しみを知ってもらいたいからです。布ぞうりは大人から子どもまで、どの年代でも使えるのが魅力です。

いっそう交流を広げたい

「おしゃべりしながら楽しく手仕事をしています。手と口両方動かすと体にも心にもいいですし、思い出の布も活かせます。皆さん、お気軽にご参加ください」と岩田さん。多世代の交流の場として、健康にも環境にもやさしいエコな活動を続けています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●さくら布ぞうりの会を、より詳しく紹介しているHPはこちらから。

知っているようで知らない

［ごみの正しい出し方］

フタ

「フタ」の分別が 2021 年 4 月から変わったことを知っていますか？

ペットボトルのフタは、以前はペットボトル本体と同じ袋に入れていましたが、現在は本体は「ペットボトル」、**フタはラベルとともに「食品包装プラスチック（プラ資源）」**として回収しています。

びん・かんのフタも、以前は本体と同じ袋に入れていましたが、現在は本体のみ「びん」「かん」として回収しています。

プラスチック製のフタで、**プラマークのあるものはプラ資源、ないものは「もえるごみ」へ。びんの金属製などのフタは「もえないごみ」に出し、かんの金属製のフタのみ、かんと一緒に出してください。**